

Information Meeting 2019 Q&A

Q: MLCCについて、4Gから5Gになることによる、スマートフォンの員数への影響を教えてください。

A: スマートフォンでの MLCC の員数は、sub-6GHz になれば約 10%増加し、ミリ波になればより増加すると考えています。

Q: 高周波モジュールについて、モジュール化が進んでいるとのことですが、その最前線で競争の決定要因となっているものを教えてください。

A: 面積の 6~7 割を占めるのはフィルタで、スマートフォンのハイエンドモデルでは 50~60 個ほど必要になるため、フィルタの特性とラインアップが重要になります。5G になると LTCC のフィルタの技術が差異化要素になると考えています。

Q: XBAR の技術・特徴・用途について教えてください。

A: 極薄の圧電単結晶薄膜を活用することで、高周波対応が可能なフィルタ技術です。I.H.P. SAW フィルタの特性も向上していますが、それを補完する技術だと考えています。

Q: ミリ波のモジュールについて、モジュールを作るのか、モジュール用の基板を供給するのか、ムラタがどう取り組むかを教えてください。

A: トランシーバーメーカーとより密に協業し、モジュールを作ろうと考えています。これまで Wi-Fi 等で培ってきたモジュールの技術に、アンテナの技術を統合します。スマートフォン以外のアプリケーションにも展開したいと考えています。

Q: 19 年度は 3,000 億円の設備投資を計画されていますが、建物の比率が高かったと考えています。来期以降は建物の投資が減り、設備投資は減少するでしょうか？

A: 来期は研究開発センターを含む建物の投資がまだ控えています。19 年度と比べ、来期と 21 年度は設備投資が減少すると考えています。

Q: 電池事業の今後の展開を教えてください。

A: 市場を見ると、パワーツールや掃除機に加え、データセンターの UPS や電動二輪車などが増えています。今後いろいろなアプリケーションが出てくると考えており、円筒タイプに重点を置こうと考えています。ラミネートタイプは、より小型のモバイル機器向けにシフトします。どの市場が伸びて、ムラタのどの電池が最もフィットするか、を見極めて事業を行います。

当 Q & A に記載されている、当社又は当社グループに関する見通し、計画、方針、戦略、予定、判断などのうち既に確定した事実でない記載は、将来の業績に関する見通しです。将来の業績の見通しは、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する一定の前提に基づき当社グループが予測したものです。実際の業績は、さまざまなリスク要因や不確実な要素により業績見通しと大きく異なる可能性があります、これらの業績見通しに過度に依存しないようお願いいたします。また、新たな情報、将来の現象、その他の結果に関わらず、当社が業績見通しを常に見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えるリスク要因や不確実な要素には、以下のものが含まれます。

(1) 当社の事業を取り巻く経済情勢、電子機器及び電子部品の市場動向、需給環境、価格変動、(2) 原材料等の価格変動及び供給不足、(3) 為替レートの変動、(4) 変化の激しい電子部品市場の技術革新に対応できる新製品を安定的に提供し、顧客が満足できる製品やサービスを当社グループが設計、開発し続けていく能力、(5) 当社グループが保有する金融資産の時価の変動、(6) 各国における法規制、諸制度及び社会情勢などの当社グループの事業運営に係る環境の急激な変化、(7) 偶発事象の発生、などです。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

当 Q & A に記載されている将来予想に関する記述についてこれらの内容を更新し公表する責任を負いません。